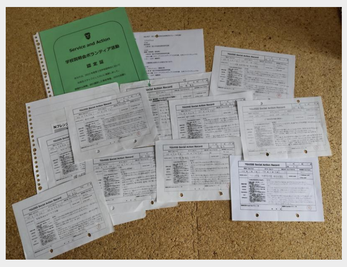
# All About My SA



グローバル化社会に生きる資質や能力を身に付けるための学習「国際教養」を具現化するのがSA活動です。社会を支える一員として、学校・地域・国・世界の人々の生き方や社会の在り方について考え、積極的に行動しています。

## 世の中を良い方向に一歩進めるための活動

### 高尾山外国語ガイドボランティア

国際理解　人間理解

2024年11月9日～12月1日の土日
（高尾山口駅前にて）

◉活動内容
高尾山を訪れる外国人観光客に、日本遺産『桑都・八王子』の魅力について、地元の中高生が英語で紹介する活動

◉ATLスキルを活かして実現したこと
グループで協力して活動し、外国人観光客に積極的に話しかけ、日本遺産の魅力を紹介した。全16回の活動なので回数を重ねること振り返り、声の大きさやテーマなど改善した。活動は立ちっぱなしのため疲れたが笑顔を絶やさず、楽しい会話を心がけた。

◉学んだこと
英語が完璧でなくても、伝えようという気持ちをくんで耳を傾けてくれる方が多く、Face to Faceの良さを実感した。また、改めて自分が住む街のことを学ぶことができた。

### 「子ども食堂」の運営手伝い

人間理解

2024年8月31日
子ども食堂カフェ北野（八王子市）にて

◉活動内容
夏休み中の子ども食堂で、食器の片付けなどを手伝いながら、訪れる子どもたちの宿題を手伝ったり、交流をしたりした。

◉ATLスキルを活かして実現したこと
スタッフの方や高校生ボランティアの子と協力して、子ども達の配膳、コミュニケーションの手伝いをした。低学年の子は、なかなかいうことを聞いてくれず、困ったが、優しく対応することができた。

◉学んだこと
夏休みの最終日で、台風が来ていたが、利用している子が多く、子どもの第3の居場所としての必要性・重要性を学ぶことができた。

### ワークショップ『中高生と考える情報戦』参加

人間理解　理数探求

2023年7月31日　笹川平和財団にて

◉活動内容
SNSやインターネットなどにある「フェイクニュース」について知り、どんな対策ができるかを考える中高生向けのワークショップに参加した

◉ATLスキルを活かして実現したこと
グループワークで協力してフェイクニュースを探した。自分では本物だと信じていたこともフェイクであると知り無知であることの怖さを知った。自宅で、SNSとの付き合い方について、家族と話しあうきっかけになった。

◉学んだこと
普段見ている情報が正しいかもわからない程フェイクニュースがこの世の中には溢れており、中学生の自分が知り得ることは、氷山の一角に過ぎないのだと知った。

### モロッコ・能登半島地震　被災地支援で街頭募金

国際理解　人間理解

2024年3月13日～14日
大泉学園駅前にて

114,236円を寄付！

◉活動内容
モロッコと能登半島でおきた地震の被災地支援のため、街頭で募金活動を行った（ボランティア部として活動、校内でも実施）。

◉ATLスキルを活かして実現したこと
ボランティア部の仲間と共に、多くの人に募金の協力を呼び掛けた。募金をしていただく際は、お礼とモロッコ・能登半島の実情について伝えることで、興味を持っていただく工夫をした。

◉学んだこと
募金を行った時は、モロッコの地震は起きてから時間がたっており、まだ復興が進んでいないのにも変わらず、人々の記憶から薄れていた。情報を発信し続けることの大切さを学んだ。

# 長野県上田市「のきした」ネットワークと研究・Social Action

## 1．上田スタディツアーと「のきした」

2024年3月 **本校ボランティア部による上田・東御スタディツアーに参加**

上田市の「のきした」ネットワークのメンバーを訪問
- -上田映劇
- -犀の角
- -NPO法人場作りネット
- -NPO法人リベルテ

→**「のきした」のつながりを知る**

場作りネットと「たすかるた」ワークショップを開催
たすかるた…自分の「たすからないこと」をかるたの札にして共有　解決しなくても心が少し軽くなる

→**「助かり合う」活動の必要性を感じる**

今まさに支援を必要とする人だけでなく、だれでも「助かる」場は必要

〈図1 「のきしたjournal」･･･のきしたによる発行物〉

「のきした」とは、**市民の力で、風雨をしのぐ軒のような「助かる場」を街中に作りその下で新しい繋がり合う文化を作ろうとする社会活動**　（のきしたジャーナル）

〈図2　たすかるたワークショップの様子〉

### ATLとのつながり

訪問において、情報を聞き逃しにくいメモの取り方や、より円滑なインタビューの方法を考えつつ学ぶことができた
→**コミュニケーションスキル「相互作用を通して思考やメッセージ、情報を効果的にやりとりする」**の活用、伸長

## 2．「のきした」の研究

テーマ：「**地域福祉をさらに充実させるネットワークとは**
**―長野県上田市「のきした」ネットワークを事例として―**」

2024年5月 個人の**ISSチャレンジとして研究を開始**

①社会問題とのきしたのつながりに関して文献調査
日本の地域社会のかかえる課題
-"家庭単位での解決が困難な課題の深刻化"（総務省，2022）
-"つながりの希薄化"（総務省，2022）

→**地域福祉としてののきしたの可能性に着目**

国の打ち出している解決策:既存の自治会などを中核とした統合型地域コミュニティを再構築（地域運営組織など）
地域運営組織…地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織（総務省website）

→**のきしたの可能性:地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体がゆるやかに連携し、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する「地域運営文化」**

②のきしたの効果と課題を分析

| 効果 | 課題 |
|---|---|
| -さまざまな人を包摂 | -各事業所が活動資金の確保に苦労をしている |
| -孤独感の緩和 | 有機的なつながりのため、各事業所それぞれの活動が安定的に行われていることも大切 |
| -子どもの見守り | -既存の地域コミュニティ（自治会･商店会など）と、どこまで連携できているのか |
| -公助へアクセスする機会 | |

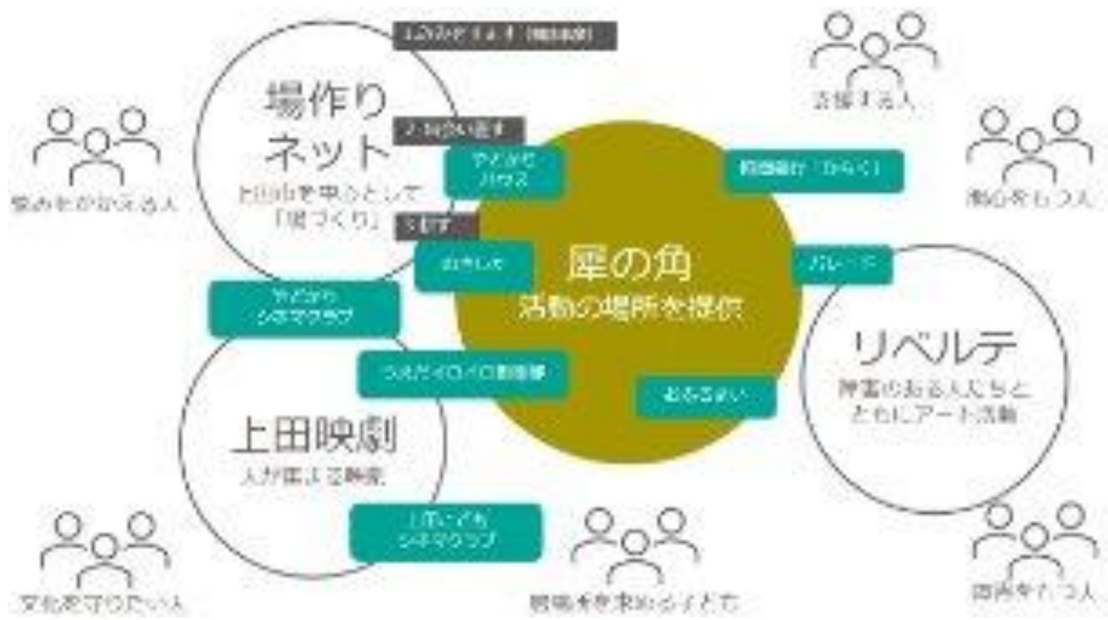
→**こうした活動を上田市民の方たちが気づいているか、既存のコミュニティとはどう連携・役割分担しているか**

③のきしたの体系の図示（図3のとおり）
④のきしたを取り巻くさまざまな立場へインタビュー（関係事業者、行政、既存の地域コミュニティ（商店会））
※一部分

関係事業者（場作りネット・やどかりハウス）の立場
→立場などにとらわれず、**信頼のあるたすかりあい**を
→**図3「のきした体系図①」は実状に近いとの評価**、一方で**「こまりごとをかかえる人に対し、それぞれの事業者はたすかりあいの入り口になっている」**

行政（市議会）の立場
→とくに**やどかりハウスなどに期待**、**のきしたとしてはまだ捉えきれていない**
→行政という組織より、職員と市民など**個々のつながりが大切**

既存の地域コミュニティ（商店会）の立場
→のきしたとしては**よく知らない、地域の問題に対する考え方が異なる**こともある
⑤今後の展望：インタビュー調査をもとに改めて捉え直し、図示・分析、地域福祉としての可能性を考察



〈図３　のきした体系図①〉

### ATLスキルとのつながり

研究テーマの設定において、スタディツアーを通して学び感じたことを組み合わせ、社会問題とつなげて考えられた
→**転移スキル「スキルと知識を多角的な文脈で用いる」**の活用、伸長
→**創造的思考スキル「今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を検討する」**の活用、伸長

文献調査において、のきしたの発行物や先行研究の文書を読み、研究に論理的に結びつけることができた
→**コミュニケーションスキル「情報を共有するために、言語を読み、書き、話し、聞く」**の活用、伸長

## 3．「のきした」メンバー・場作りネットのクラウドファンディングに参加

のきしたのメンバー･NPO法人場作りネットによるクラウドファンディング
期間：2024年7月1日-8月22日
初回目標金額：300万円
用途：場作りネットと犀の角の運営する駆け込み宿「やどかりハウス」運営資金1年分
プラットフォーム：Syncable
支援総額：399万2877円
支援者数：377人

〈図3　NPO法人場作りネット　クラウドファンディングのページ〉

ボランティア部としての協力：Syncableの「サポートファンディング」として参加
サポートファンディング…クラウドファンディングの目標達成をサポートするため、支援者個人がキャンペーンを立ち上げて寄付を呼びかけられる機能
期間：2024年7月19日-8月19日
目標金額：2万円
呼びかけ方法：部のSNSやキャンペーンページで定期的に記事を投稿
部内および卒業生、研究でつながった同世代へ呼びかけ
支援総額：4万7873円
支援者数：13人

→**部としてのつながりによって、多くの方が支援してくださった**
→**SNSなどによる広報でも、新規の支援者を得ることは難しい**

### ATLスキルとのつながり

サポートファンディングを行い支援を呼びかけることで、中高生などより多くの人に協力を促すことができた
→**協働スキル「他者と効果的に協力する」**の活用、伸長

### 国際教養の三本柱とのつながり

社会を支える一員として、地域に暮らす人々に思いを馳せ、地域コミュニティの新たなネットワークの可能性について、地域福祉の点から前向きに考察できている
→**人間理解**を実践

## 引用・参考文献

地域コミュニティに関する研究会．「地域コミュニティに関する研究会　報告書」．『総務省』．2022年4月．https://www.soumu.go.jp/main_content/000819371.pdf．参照日：2024年6月12日．
Syncable．「誰でも駆け込める宿"やどかりハウス"から社会の希望を始めたい！」．『Syncable』．https://syncable.biz/campaign/6144．参照日：2024年11月22日．

# 今までのSAと得たこと

**４年（高校１年）**

## 行ってきたSA紹介

中学一年生～二年生

**ボランティア部に入部**

### ➢ 「服のチカラプロジェクト」

校内外で不要になった子ども服の回収・寄付

実際に集めた服290枚

校内チームとして校内での寄付の呼びかけやポスターの作成を行った。活動を通して、一緒に取り組む部員同士のつながりができ、服を集めきった達成感があった。

**協働スキル**

### ➢ 校内イベント企画のサポート

「STEP FORWARD」

「STEP FORWARD」開催チラシ

フェアトレードについて講師を招いたオンラインイベントで、当日のトラブル対応を行う先輩をサポート。フェアトレードの目的や活動事例などについて学んだ。

**国際理解**

### ➢ 「はしっこプロジェクト」

株式会社一条木材と協力、端材でできた木のおもちゃの開発

商品アイデアを出し合い、会社とのミーティングを通して改善を重ね、商品考案

開発したはしっこミニカー、マスクストッカー

**批判的思考スキル**

中学三年生～高校一年生（現在）

**SAって楽しい！**

### ➢ Daisy Days for Kenya

商品開発を通したケニアのストリートチルドレン問題についての啓発活動

消費活動で課題を身近に！

◉活動のはじまり

「国際課題に取り組みたい」という思いを持った13回生（現高3）が集まった→その活動を引き継ぐ

➢ 立てた問い

**Q１. 遠く離れた地の課題をジブンゴトとしてとらえてもらうには？**

**Q２. その課題に対して本当に必要な支援を届けるには？**

◉活動目的・概要

ケニアで暮らすストリートチルドレンについてより多くの人に知ってもらい、支援に関わってもらうために…

- **アフリカの伝統的なプリント生地「キテンゲ」を使用した、中高生にとって「身近」で「魅力的」な商品の開発**
- **商品やワークショップの売上の一部を、ストリートチルドレンの社会復帰支援を行うケニアの「Tumaini Innovation Center」へ寄付し、授業で必要な物品の購入費とする**

◉学んだこと

様々な人と関わる大切さ

プロジェクトメンバー、ケニアで活動するJICA職員の方や、キテンゲの余り布を提供してくださるアパレルブランドなど外部の協力者、ワークショップの参加者、商品を買ってくださる方、など様々な方と関わることで、視野が広がった。

正確な情報を知り、届けること

JICA職員の方からいただいた情報をいかにそのまま、受け入れられやすい形で共有するか。SNSや商品開発などにおいてこだわった。

→正確な情報を知る、知ってもらうことの大切さを学んだ

**他にも…**

**下保谷児童館でのボランティア**

コミュニケーションスキル　人間理解

**文化祭企画委員**

整理・整頓スキル　人間理解

**地域のイベントボランティア**

協働スキル　人間理解

## 三本の柱との関連性

### ➢ 人間理解

地域のイベントでのボランティアを通して、地域社会を支える一員としての自覚が芽生え、他者やコミュニティを思いやって行動することを学んだ。

例えば、石神井公園で開催される地域のイベント「チルコロ」には3年連続でボランティアとして参加している。後片付けなどで地域の方々と話す機会ができ、直接交流したことで馴染みのなかった学校周辺地域や練馬を「第二の地元」と感じるようになり、よりよい環境にするために自分のできることは最大限したい！と思うようになった。

### ➢ 国際理解

ストリートチルドレン問題の啓発活動や学習支援を行う中で、国際的な子どもの貧困という課題について学んだ。啓発活動を行う、情報を発信する身として、正確で適切な情報の入手、積極的な知識獲得が必要である。そのため、疑問があれば協力してくださるJICA職員の方にすぐさま聞く、または調べるということを通してストリートチルドレンの現状や発生要因、どのような対策が取られているのか、などを学んだ。この活動を通して、国際的な課題を理解するほど、それが身近なジブンゴトとして感じられ、解決に役立ちたいと思うようになった。

## ATLとのつながり

### ➢ 協働スキル

互いに意見を出し合い、様々な役割を分担し、自ら引き受ける

様々な人と関わる大切さをSA活動から身にしみて感じた。SAに積極的に取り組む前：個人作業のほうが好き、「自分で全部やれるのに…」と思ってしまっていた

→今：いかに自分が限られた視点から物事を考えているか実感した。同じものを見ていても、周りの人の発想は全く違う！

### ➢ 振り返りスキル

試行錯誤を繰り返して振り返りながら活動を進めること

Daisy Days for Kenyaの活動は特に、計画の企画→運営（実行）、商品開発→販売などを行う中で、失敗や成功を何度も繰り返し、振り返りを行い、改善をするためにはどうしたら良いか考えてきた。

→何度も繰り返すことで活動がより良いものに

# Free The Children Japan の Take Action Camp 2024 を通して

## きっかけ

私はボランティア部に所属したり等と前々からSA活動を行ってはいたが、これまでの活動ではただ「楽しい」という気持ちだけで終わってしまい、実際に行動に移せたり貢献できたという感覚があまりないことが悩みであった。
それを部活の先輩に相談し何か良いプログラムはないか聞いてみたところ、以前Free The Children Japan（FTCJ）フィリピンスタディーツアーに参加した際の現地交流等で学びになることが多くあったということで関連のイベントを勧められた。
実際に活動概要等を調べてみてFTCJに興味を持ち、より深く具体的な社会貢献に繋げるための一歩を、この夏休みを機に踏み出したいという想いも強くあった私は夏のTake Action Camp in Japan(TACJ)に参加した。

## FTCJとは!?

### 始まりは12歳のクレイグ少年

1995年
カナダのクレイグ少年は学校に行く前に詠んだ新聞で「児童労働に反対した自分と同じ12歳の少年が射殺された」という記事に目を奪われる。
↓↓
「子どもの問題なら、自分たちこどもで取り組もう」とフリーザチルドレン（FTC）を設立した。
↓↓
その後ノーベル賞に計３回ノミネートされている。

クレイグが目にした新聞記事

当時12歳のクレイグ少年

### Vision

世界のすべての人々が誰一人取り残されることなく、心もからだも健康で、自身の夢や希望を実現でき、国籍・宗教・年齢・性別・文化・障害の有無に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気づける多様性のある社会。

### Mission

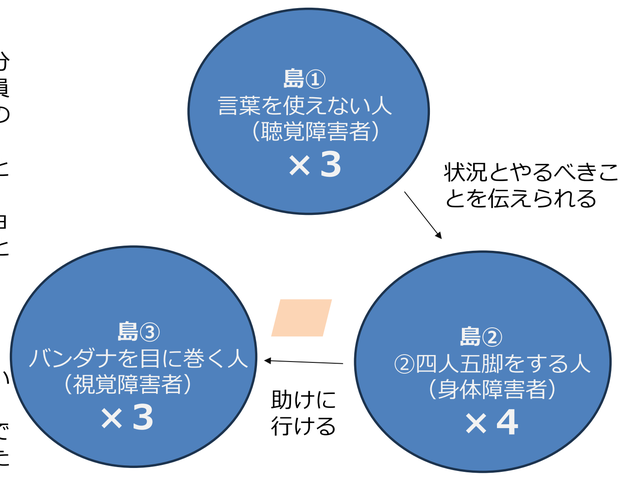
①国内外の貧困や差別から子どもをFree（自由）にする
②「子どもには世界は変えられない」という考えから子どもをFree（自由）にする

## TACJ 2024 での活動

TACJではジャンルに関係なく、日本や世界における社会課題を取り扱ったアクティビティや講演を聞き、それを通してより根本的な彫り込んだ内容へと足を踏み入れた。その際10人ごとのスモールグループが決められ、スモールグループにてと全体でのアクティビティがあった。

### 1.スリーサークル

【内容】
この３つの丸は島であり、それぞれの島ごとに立場や役割が分かれている。周りは深い海だという設定。助かるためには全員①の島へ行かなければならないが、唯一状況を知っている①の島の人は動いてはならない。
また②③の島の人は足がいかだ（段ボール）についていないと進めないため、身動きも限られてくる。
私たちのミッションとしては様々な手法でのコミュニケーションを利用して、全員の協力のもと10分以内に全員が①の島へと移動し、全員がその場の状況を理解することだ。



スリーサークルのイメージ図

【振り返り】
私は視覚が不自由な人であった。
そのため何も状況を理解できず、気づいたら移動させられていた、という状態で混乱した。
自分視点からするともう少し情報を伝えてほしかったところではあるが、立場の違いによって説明の優先順位は異なっていた。
例えば②の島にいた人は少しでも速く動くという効率性を重視した一方で私を含む③の島にいた人は状況理解を求めていた。
このような音を通して普段当たり前のようにできていることが不自由になることで、意思の疎通にも変化が生じることを知った。
最終的に完全なるクリアへはならなかったが、伝達一つ一つの難しさや誤解が生じるという点を改めて個人ではなく複数人の間で見直す機会があってとても貴重だったと思う。

実際に行っている様子

【ATLとの関連性】
**コミュニケーションスキル**の重要性を改めて感じた。自分の状況がどうであれ一方的に聞いてしまっては会話が成立しないため、情報を必要か不必要かを整理しつつ順序良く話を進めるこ
とを心掛けた。
また①②の人との間では言葉によらないコミュニケーションが必須であった。ある程度の重要な情報は伝達できていたようだが、欠けていた部分が起こったミスと関連していたと思う。互いに正確な理解へ繋げられてから次の会話に向けられなかった部分が反省点だと私は考えた。

### 2.ゲストスピーカー

【内容】
アパレルで児童労働撲滅を目指すバングラデシュの会社、Sunday Morning Factory株式会社の石出 恵（いしで けい）さんよりオンライン上でお話しいただいた。環境に良い服を作る上での取り組みやソーシャルビジネスについて、専門的な視点から学んだ。
オンラインではあったが、工場ツアーやインタビューから１つ１つをどのような想いで作っているのか等についても知ることができた。

講演の一部

【振り返り】
まず環境や人権に配慮しつつも生活に役立つものを作っていることに興味を注がれた。お話を聞いたり実際の様子を見たりしてみて人のために丁寧に作るという想いが国関係なく伝わってきたと思う。最後にその会社で作られたエシカルTシャツを手にし着てみることで、販売サイクルによる一つの課題に対する取り組みに関わることができたことが単純に嬉しかった。服の素材を変えるというたったひと手間で改善に向けられるので、今後気にかけて実施したいと考えている。資源はどこから得られているのか、

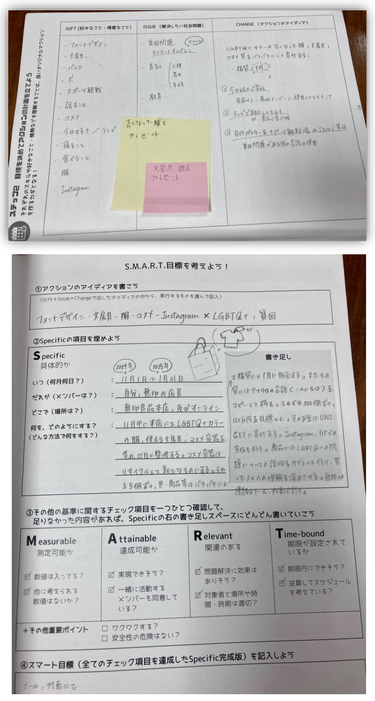
Tシャツを受け取る際の様子

【ATLとの関連性】
**転移スキル**と繋げられたと思う。社会貢献と聞くと実際にどこかに行って活動する、あるいは調査をすることで知識を身につける、のようなもののイメージが強かったが、ツアーや間接的なインタビューを通してその場の様子や状況を感じつつより身近に捉えることができ貴重な機会だったと感じている。普段何気なく服であるが今回のことを通して、素材はどこから出ているのか、非効率だと思う点はないのか、等と異なる視点からの質問をしたことによって概要を詳細に知れた。なじみのない状況であっても、自分が持っている知識と絡ませて考えることによって、複雑だったものが段々と緩み親しみやすくなっていくはずだ。話を聞いてそれを何に繋げたいのかという自身の興味へと繋げられたうえ、エシカル商品を1つ持つだけで、これまであまり関係のなかったことへの関心が高まり、それが行われている社会的背景を理解することができた。

いただいたエシカルTシャツ

### 3.Action Plan

【内容】
GIFT(好きなこと・得意なこと)×ISSUE(解決したい社会問題)＝CHANGE(アクションのアイディア)
を基に、自分のスキルや好きなこと・情熱をどのような形で課題解決に活かしていけるのかを実際に自分が行動するつもりで考え、個人でにアイディア出しを行った。その後友達との共有や相談を通して何を関連づけられるのか、他の視点からのアドバイスも互いにし合った。
出たアイディアの中から実行するものを選び、決まったものから、日付や場所、どのような方法で何をするのかのスケジュールを詳細に組み、翌日にその提案を参加メンバー全員の前で発表した。



アイディアのメモ・プラン内容

【振り返り】
これが私の、「何かやりたいと思っていてもそれを行動に移せない」という課題に対する一番の改善策になったと思う。
会社から日程、PRと自分だけでこんなにも具体的にスケジュールを立てたことはこれまでに一度もなかったので、実際にプランを立てることによってこれまでの行動プロセスの見直しもできたうえ、今後どのようなことに注意してアクションを起こしていくのかに関してもより深く、具体的に考えるきっかけ作りに繋げられた。特技や好きなことをどのように活かすのかアイディアが思いつかなかったり迷ったりとしたが、より多くの人に相談し幅広い視点を受け持つことで、自分のプランを、自分が納得いくまで、繰り返し変化を加えて理想へと近づけていけたと思う。
またSMART目標（Specific, Measurable,attainable,Relevant,Time-bound）を意識することでより確実なものになるだけでなく、本来の目的や自分が第一段階から考えていたことを総合的に振り返りつつ進められたと感じている。
たとえ同じ社会課題に興味があったとしても人によってそれをPRしたいのか、WCを開きたいのか、実生活に結びつけたいのか、等と形は人それぞれであったし、だからこそ自分が思いもしなかった新たな発想が浮かび上がった。浅かった考えが周りによって説得力のあるものになり、周りのそれには自分が関わっているという連鎖関係や達成感も実感できた。
最終発表でも思わず感心の声が漏れるほど創造の観点が多かった。客観的に見ていても素直に楽しそう、やってみたいと思えるものがほぼ全てにあり、興味深い内容であった。
プランの実施を試みさらに目標金額を達成することが一番であるかもしれないが、そうでなくても、この思考段階はは必ず自分の普段の探究活動（例えばISSチャレンジや国際教養の学習）の糸引きやヒントになるはずだ。今後も自分自身の軸を持ちつつ、積極的にほかの考えを取り入れていきたい。

プラン発表の様子

【ATLとをなの関連性】
まず今降り買ってみて最も感じられたと思うのは、**協働スキル**だ。アイディア出しをする中で悩んでいる友達に助言したりと手助けしする一方で相談も積極的に行い、意見を尊重し受け入れることに加えて助言を互いに与え受け取っていくという相互作用によって刺激される部分が多くあった。共感してから、他人のことを親身になって考える、ということを時間をかけてできたと感じている。
プランを立てる時間は約２時間と非常に限られていた。その中でまずは片っ端から、少しでも思い浮かんだこと、プラスだと感じられたこと、等をルーズに考え選択肢を増やしていった。それがある程度自分が満足いくような量を出せてから、実現可能性が高いことや矛盾がないことを絞りつつ、確認していった。現時点での自分のスケジュとどのような課題が発見されるのか、周囲の人々は何を感じるのか、どのような影響を及ぼすのかと自分の中での反論を出しより正確なものになるよう検討を重ねられたと思う。時間・場所に関しては現実的なものであるかを月ごとに整理することを心掛けていった。
このようなより多面的な思考によってまとめることを通して、**批判的思考スキル**、**創造的思考スキル**、そして**整理整頓する力**と様々なスキルを養えたはずである。
全体の発表を通して、自分のプランに改善できる面はないのか、自分の立てたスケジュールは雑なものになっていないか、等再度自分のプロセスに着目して最終的な考察鵜へと導くことができた。さらに様々な提案を聞くことで自分が想定していたもののメリット・デメリットに気づけたと思う。

## 三本柱とのつながり

総合的に考えてみて、全ての柱を活かした活動ができたと考えている。
だがその中でも多く考えられたのは**人間理解**であった。スモールグループのものでは特に、全てのアクティビティにおいて話し合いや考えたことを共有する時間が設けられており、視点の違いによる多様性を重視していた。同じようなことを言っていてもそれに辿り着くまでの根拠やそれぞれの経験は全く異なるため納得できた。また人間といっても、私自身を知る機会にもなったと思う。悩みや迷いが様々な場面で生じることで自分が今何を考えているのか、何が分からないのかと一つ一つに向き合うことを大切にできたうえ、その分自分にある殻破りを何度も試みた。踏みとどまってしまっている点が明らかになることで今後の展望ややるべきことを定めることに繋げられたと思う。
その一方で今回の活動では日本規模でなく、外国にある課題に焦点を置くことが多々あった。例えば私は差別について関心があり調査を進めたが、日系に限らず黒人差別や移民差別等すでに解決されているようであってもまだ続いている、陰ながらで残ってしまっている問題があることを知った。このほかにもゲストスピーカーとしてお話いただいた会社はサウジアラビアにあったりと言語が異なるコミュニケーションの間で私たちは通じることができた。　この点から私は、**国際理解**の視点からも考えることができたと感じている。
最後は**理数探究**について。これは他の2つよりは関連性が薄いと思われるが、Action Planの計画立ての際に目標金額や目標個数、また期限を設定することで具体的な数値を扱うこととなり、統計的に考えることがややあった。そのため計画をより現実的なものにするために集まる個数等から販売可能な数を予測するということに関して分析を進めていった。使う回数ことは少なかったが、最終的な提案の確認や決定付けに最も重要な役割を果たしていたと、私は考えた。
意識することは数少ないかもしれないが、必然的に国際強雨用の考え方はこのような学校とは環境が違う場所でも身についてくることを感じた。このような形で振り返ってみてもその結びつきが分かるため重要性を改めて認識することができたと思う。

# ISS actcoin project

## なぜ運営メンバーに？

### actcoinとの出会い

◉たまたま参加したボランティアがactcoinの付与対象だったから！Social Actionとactcoinの魅力に気づきました！

　はじめてボランティアをしたのが、ブラインドサッカーの試合の運営ボランティアでした！ボランティアを経験したいと思って参加したのですが、仕事をしているという感覚が楽しくて、また視覚障碍者が活き活きとサッカーをしている姿を見て、ワクワクしていたのを覚えています！
　このボランティアがたまたまactcoin付与対象で、actcoinが何かもよくわからずとりあえず登録をしました。７時間ボランティアをしたのですが、１時間1000コインという換算で7000コインをもらいました！実際のお金とは違うけれど、7000コインもらえたというのが嬉しくて、しかもコインが最終的に寄付につながるというのがすごいいいなと思いました。

actcoinは社会貢献の見返りとしてもらえて
活動者からしたら嬉しいし、活動のモチベーションにもなるだけでなく
そのコインを使って慈善団体などに寄付できる
社会貢献において最強の取り組み！！
⇒運営メンバーになってactcoinをもっと広めたい！！

## こういうSAにも参加していました

大泉学園で開かれたスイーツフェスティバルにボランティアとして線化しました。当日は、私は主に受付を担当して来場した方々に、パンフレットの配布、来場者数のカウント、子供には紙帽子の配布、案内などを行いました。当日は雪が降っていたにもかかわらず、外まで行列ができるほどの来場者がいて、張り切ってボランティアをしました。スイーツを買いにワクワクしている方々と、スイーツを買えて幸せそうな方々を受付でみることができて、また、来場者と軽く挨拶をしたり、案内をしたりコミュニケーションをとることができて、7時間があっという間でした。

高知の高知国際中学校・高等学校とSAとしてどんな活動をしているのかオンラインで交流しました。
私は聞くだけだったのですが、高知の高校生が行っている活動が高知に根付いたものであったり、関東に住んでいる私にはない発想があったり、SAとしてこういう活動もできるのだと知ることができました。また本校からはボランティア部の方々が紹介をしていて、同じ学校だけれどボランティア部がなにをやっているのかよく知らなかったので、知れてよかったなと思いました。

## 今までの活動

### ◉actcoin説明会の実施

　SA weekの一環として、私が企画したのが本校中学1年生対象のactcoin説明会です。SA weekがあるにもかかわらず、入学したばかりで、actcoinを知らない人がほとんどなので、actcoinの登録をしてもらわないとと思い、企画をしました。企画としてはactcoinの仕組み、活動についてプレゼンで説明をして、一緒に登録するというものです。

・当日の様子
事前にポスターを作成し、各クラスに掲示、開催時刻の前に各クラスに呼びかけを行いました。ただ、実際来てくれた中学1年生は数名ほど、他の学年の人にも急遽声かけをし、10人ほどの参加者がいました。しかし、多くの参加者は登録済みの人でした。本来のSA weekのためにactcoinの登録者を増やすのいう目的を達成することができませんでした！

そもそも企画をしたのが直前でポスター掲示、teamsでの連絡も遅くなってしまいました。はやめに企画をし、告知をもっとすればよかったと思います。私は半年ほど活動をしてきて、actcoinの問題点の一つが登録者が少ないということ、積極的に利用できていないということだと思うので、また説明できる機会があればいいなと思います。

### ◉Charibonの実施

企画したのはほかの運営メンバーですが、生徒及び教師から読み終えた本を回収し、寄付をして、寄付額がメディセンの充実化に使われるという企画をしました。私は期間中本を受け取るということをしていたのですが、1人が大量の本を持ってきてくれたり、先生方も寄付をしてくれたり、思った以上に本が集まってよかったです。ただ、多いとは決して言えなくて、もしもう一度やるとしたらどのように査定点数を増やすのか考える必要があるなと実感しました。

| 査定点数 | 買取点数 | 寄付金額 |
|---|---|---|
| 33冊 | 23冊 | 1,838円 |

### ◉第2回chiritsumoプロジェクト

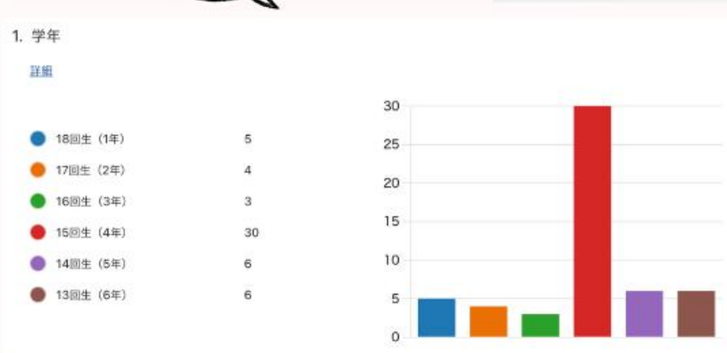
学校全体で40万コイン貯まったので、3団体に4万円寄付することになりました。寄付先は、actcoin運営メンバーで話し合いを行い、メンバーの今までの活動と関連した3団体にしようということになりました。

・環境系の団体⇒NPO法人クリーンオーシャンアンサンブル
←プラスチックの海の鑑賞会を行った
・国際協力系の団体⇒国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン
←アフリカのストリートチルドレンの支援をしている
・障害福祉、医療系の団体⇒認定NPO法人ポケットサポート
←ブラインドサッカーのボランティアの経験

| | | |
|---|---|---|
| 得票３位 | NPO法人 クリーンオーシャンアンサンブル | 41 |
| 得票１位 | 認定NPO法人 ポケットサポート | 46 |
| 得票２位 | 国際協力NGO ワールド・ビジョン・ジャパン | 45 |

投票した結果は上記のようになりました。投票した理由をアンケートで聞いたところ、下のような回答が得られました

もともと海洋問題に興味があった
友達に病気の人がいて支援したいと思ってた
世界的に支援を行っているのがいいと思った
映画に感銘を受けて寄付したくなった
どんな子供でも教育だけは受けてほしい
ビジョンに非常に納得した




無事４万円分を企業に寄付でき、よかったのですが、同時にactcoinの課題も感じることができた。右の表にあるように全校生徒の中から、投票に答えてくれた人は54人でした。全校生徒約700人のうち54人というのは少ないなと感じました。４年生は私たち運営メンバーが在籍していて、投票を促すことができたから比較的多かったと思っていて、今後chiritumoをやっていくにあたって投票数を増やすために、宣伝をきちんとすることの必要性を実感できました。

## 今後の展望

### ◉目標：actcoin利用者を増やす！！

１年弱運営メンバーとして活動して感じたことは、ACTCOINの利用者、活動に参加する人が非常に少ないということです。
私自身ACTCOINの仕組みに感動し、運営メンバーになったので、もっとたくさんの人にACTCOINを知ってほしいし、使ってほしいなと思っていて、今後運営メンバーである限りACTCOINを進めるような活動をしていきたいです。
具体的には、説明会を事前に準備し告知すること、CHIRITUMOではもっと告知をすること、CHIRITUMOを通して登録を促すことをしていきたいです。学校の多くの人がACTCOINを登録するようになったらいいなと思います。

## ATLスキルとの関連性

### ◉コミュニケーションスキル

多様なデジタル環境やデジタルメディアを用いて、他の生徒や専門家と協働する

Teams、zoomなどオンラインでのやり取り、powerpointやcanvaなどで説明資料の作成など、多様なデジタル環境を用いて活動することができたと思います。普段運営メンバーはtemasでやりとりをしていて、意見を出したり予定を確認したりしていて、たまにactcoinの事務所の方とzoomでやりとりをして、運営しています。私たちの負担にならず、また対面で会うことが難しい場合が多く、オンラインを使うことでスムーズにやりとりができています。また、左にあるようなactcoin説明会はプレゼン資料をcanvaで作成し、聞いている人にわかりやすく理解してもらうことを重要視しました。オンラインの様々なツールを使ってactcoinの運営、説明などできたと思います。

### ◉社会性スキル

リーダーシップを発揮し、集団の中でさまざまな役割を引き受ける

actcoinの学校代表として、様々な企画を考えたり、公開研究会に参加したり積極的に活動できたと思います。
ＳＡweekでは私たちが主体となって様々な企画を考え、企画書を作り、実際に行って、chiritumoでも団体を決めて告知などをするということができました。私は運営メンバーになる前は何かの代表になるという経験があまりなかったのですが、運営メンバーになり、自分から様々な行動を起こし、他者に影響を与えることができるようになったなと振り返ってみて思いました。

### ◉自己管理スキル

個人的な目標や学問的な目標を達成するために方法を計画し、行動する

私はactcoinを多くの人が登録してほしいという目標の元今まで活動してきていて、その目標を達成するために説明会を企画し、実行したり、公開研究会など積極的に説明する場にさんかしたりしてきました。まだまだ目標の達成には程遠いですが、これからも登録者が増えるような取り組みをしていきたいと思っています。

## 国際教養の3本の柱との関連性

### ◉国際理解とのかかわり

　国際理解という観点では、日本および海外の問題を理解し、その問題に対して少しでも行動をするという観点から活動できたと思います。例えばchiritumoプロジェクトでは、社会で問題になっていることを挙げ、そのなかで海洋問題、難民問題、医療の問題という3つの問題をピックアップし、実際に活動している団体を見つけた。他の活動も、何かしら学校、日本、世界の問題を知り、その問題へアプローチをするという形が多いと思っていて、国際理解はactcoinを運営するうえで重要な視点だなと感じています。

### ◉人間理解とのかかわり

人間理解は、他者や社会を理解し、思いやり思って社会や他者に貢献するということだと考えています。今までのactcoinの活動では、まさに人間理解を活用してきたと思っています、例えばブラインドサッカーのボランティアでは視覚障碍者を知ることができて試合の役に立てました。Chiritumoのプロジェクトでは様々な団体を調べたうえで寄付したいと強く思った団体を3つ絞り実際に寄付をできました。SAをしてactcoinを貯め、社会貢献する団体への寄付というプロセスで社会や団体、他者を理解することは不可欠で、人間理解ができたと考えています。

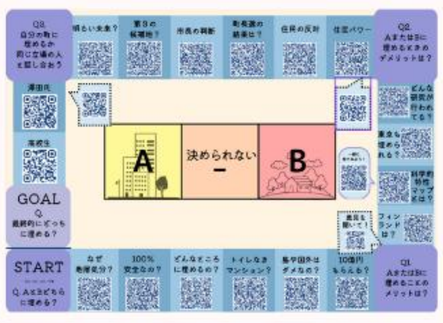
## 他にはこんな活動しています

### ◉トククラ　小学生対象のワークショップの実施

トククラは小学生が自己表現する場を提供するという目的で、毎週地元の児童センターでワークショップを企画しています。
先輩方がはじめた活動で現在は本校4.5年生の約15人で活動しています。
ワークショップの内容としては、季節のイベントなどに即した工作や、体を動かしてもらうなど様々な企画をしています。
私は企画をするときに、楽しく自分を表現してほしいなと思っていて、実際に小学生が楽しく参加してくれるととてもうれしいです。

### ◉issチャレンジとして地層処分に関する教材作成

本校のISSチャレンジとして、原子力発電の地層処分について中高生に知ってもらえるような教材の作成をしています。
地層処分は解決が必要な課題なのにもかかわらず、あまり知られていない、学校でも扱わないということが問題だと思い、昨年度から活動しています。教材としては授業1時間で地層処分について知ってもらって議論できるようなボードゲームとカードゲームを作成しました。去年の夏に作ってから、専門家や本校中学生、他校の中高生など様々な人を対象に試行し、フィードバックをいただき改善している最中です。



**ぜひ登録してACTCOINゲットしてください!**

# ISS actcoin project

## 中高生の視点から考える actcoin・社会貢献活動のあり方とは？

## -actcoinチームに入ったきっかけ-

### ○actcoinとの出会い

私がactcoinを知ったのは2023年の夏のことだった。
「カードゲーム『fromMe』でウェルビーイング！」と言ったボランティア部で主催したイベントの統括となってそこで初めて初めてactcoinを知った。そこからactcoinの存在について興味を持ち、学校で紹介されたり、ボランティア部で主催されているactcoin関連の色々なイベントに参加してみた。
自分が行った社会貢献活動（SA）が可視化され今まで行ったactionの中から自分の興味があったイベントやトピックをピックアップし、自分の個人の活動にもつなげることができた。

### ○チーム所属のきっかけ

actcoinを知っていくに連れ、もっと色々な人がactcoinについて知り、この活動を広めていくことができれば、SAのハードルを下げることができるのではないかと考えた。そして今年の冬、第２期ISS×actcoin project推進PJメンバーになった。自分達で企画した活動を周りの人たちを巻き込みながら実行していくことによって、より生徒の目線に寄り添ったアクションを提供する志を持って臨んだ。

## -actcoinから得たもの-

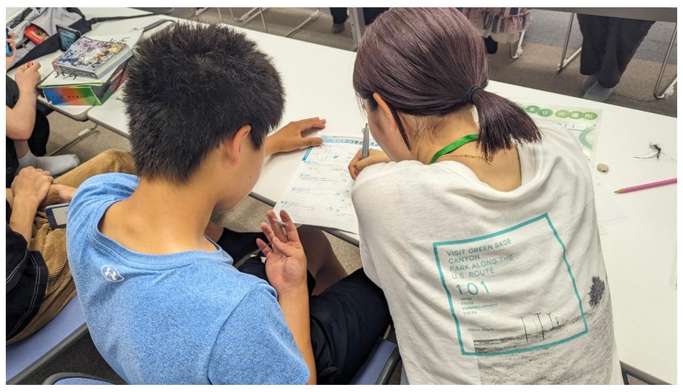
### ○自分の興味関心の発見・人間理解

Actcoin付与対象の14のイベントをはじめとして、様々なボランティアの経験を積んできた。中でも私は人と関わりながらボランティアをすることや、見える誰かのために活動することが好きなことを知った。

具体的にブランインドサッカーのボランティアをactcoinを通して行なったときに気がついた。このイベントにボランティアとして参加した当時の私はブラインドサッカーについては何も知らなかった。加えてどのような人がどのように運営しているかなどもわからない状態だった。実際に参加してみて、ブラインドサッカーというスポーツについてはもちろん、どのような人がプレーしているのかなど様々なことを学ぶことができた。一番印象に残っているシーンは運営している人たちの心構えだ。今回のブラインドサッカーの試合を運営している人たちの中には、健常者だけでなくハンディーキャップを持っている人たちもいた。
ハンディーキャップを持っている人に参加理由を聞いてみた。すると、「自分も同じ不利な条件にあるからこそ、同じ状況にある人たちを応援したいと思った」といったことが大半だった。私はこの言葉に心を打たれ、もっと自分と同じような悩みを抱えている人たちの助けになれるといいなと思った。そして人間理解の観点から物事を考えることができた。

そんな思いから参加し始めたのが「始まりの場所」という団体だ。高校生から大学生までのスタッフが集い、小学生と中学生に勉強を教えるといった学習支援の活動をしている。私はもともと勉強が好きになれず、家でも全く勉強ができなかった。自分と同じ悩みを抱えて勉強を教えてもらいに参加する子どもや、家庭以外の居場所を求めて参加する子どもなど様々なニーズに応えることができる。そんな素敵で自分にあった活動をすることができている。

actcoinはこのような自分が何に対して興味があるのか、どんな人を救っていきたいのかなどの自己分析をするきっかけを与えてくれた存在となった。自分の大好きだと思える活動を毎週できるに加えて、自分がどのようなものに興味があるのかなどの大きなものを得られた。



### ○批判的思考スキル・協働スキルの活用

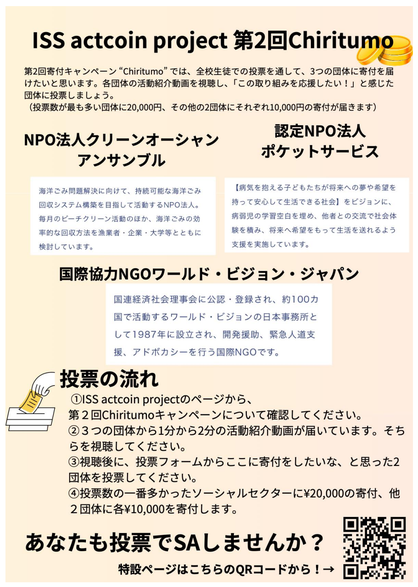
自分の好きなものは何か、興味があることは何かを探求する上で使用した。自分の考えを組み立てるとき、まず手当たり次第情報を取り込んだ。取り込むためには様々な種類のボランティアに参加し、参加する意義や本質を自分に問うことができた。また協働スキルを使用し、他者の見解や考えに積極的に耳を傾け、自分が判断するときの判断材料にまで持ち込むことができた。

## -実施した活動-

### ○ISS cinema vol.1 「プラスチックの海」上映会

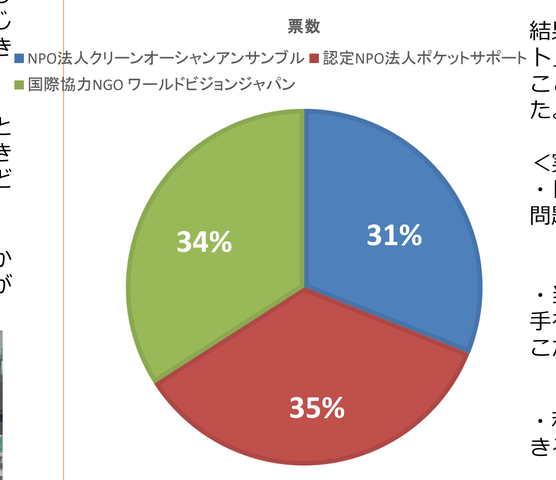
6月8日は世界海洋デーに設定されている。そして海洋デーに合わせて海洋汚染の問題を知ることができるドキュメンタリー映画、「プラスチックの海」の上映を開いた。海洋問題と聞くと大きすぎて、自分がその問題に対してどんなことができるかが明確ではないのではないか。
自らアクションを起こす前に、どんなことが問題となっているか、その問題の現状を知ることがとても重要視されてくる。そこで映画という媒体を使用し、楽しさと学びを同時に与えることができた。鑑賞中は真剣に見て理想と現実のギャップに驚いている人たちも少なくなかった。この映画がより多くの人の心に残り、SAをする原動力になればいいなと思った。

### ○第2回Chiritsumo




第２回Chiritumoでは第1回同様で行なった。
今回は40万コイン、つまり4万円相当のコインを生徒全体で団体に寄付ができることになった。３つの団体を挙げて、生徒の投票で一番多かった団体に2万円、その他の2つの団体には１万円ずつ寄付できるといった仕組みを取った。

寄付先を考えるとき、自分達で３つの団体を決めた。
１つ目に挙げたのは「NPO法人クリーンオーシャンアンサンブル」という団体だ。プラスチックの海の上映会を行い、そこでコインを配布したこともあり、多くの生徒が海洋問題に対して興味を持っていると思い、海洋系の活動をしているこの団体を候補の一つに入れた。
２つ目は「認定NPO法人ポケットサービス」だ。「病気を抱える子どもたちが将来への希望を持ち、自分らしく暮らせる社会にしたい」をビジョンに活動を行なっている団体だ。自分達も子どもであることから、身近に感じることができ、寄付したいと思う生徒が多いのではないかといった視点から選考した。
3つ目の寄付先として「国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン」を選んだ。日本に留まらず、世界に対して社会貢献活動を行なっているNGO団体だ。TGUISSには帰国子女や、海外に興味を持った人たちがたくさんいる国際的な学校だ。生徒の中でも国際協力している団体に寄付や支援を送りたいと思っている割合は多いと考え、今回寄付することにした。



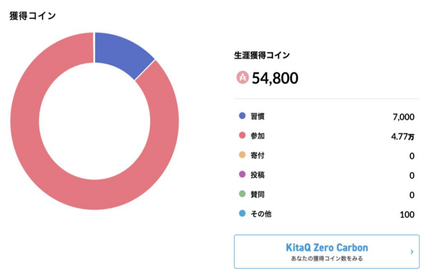

結果として一番選んだ人が多かった団体は「認定NPO法人ポケットサポート」となり、この団体に2万円、そのほかの2団体には1万円ずつ寄付することができた。今回の投票に実際参加してもらった生徒の理由は様々だった。

＜実際の声＞
・日本は海の国であり、海に恩恵を受けていながらも、海洋プラスチック問題などを引き起こしているため早い改善が必要だと思ったから。
（ NPO法人クリーンオーシャンアンサンブル）

・当事者であり、専門家である人たちが直接柄に苦しむ子供たちに支援の手を差し伸べられるという点がいいと感じた。当事者の視点からニーズにこたえるために寄付金を使ってくれそうだと感じた。
（認定NPO法人ポケットサービス）

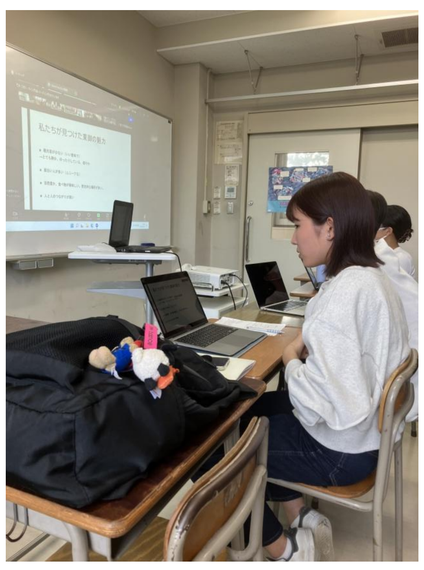
・私たちと同じ世代もしくはそれより小さな子供に健康で安心して勉強できるような環境で暮らしていってもらいたいから。
（ 国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン）

## -今後の活動の展-




今後私はactcoin PJ メンバーの1人として中高生がSA活動のことを共有できる環境づくりに励んで行きたいと思う。具体的には学校を超えて交流会を開き、自分が過去に行ってきた活動を紹介しあい、もっと活動の幅を広げることだ。自分が何に向いているのかわからないだったり、将来の夢。好きなことがない人たちに新しい視点や選択肢を与える機会を作って行きたい。そのためにはまずは自分から色々なボランティア活動に参加し、紹介できるボランティアの幅も広げて行きたい。ここにactcoinが加わることによって、コインが貯まる感覚と経験が可視化され、よりSAをしたいといった気持ちに拍車をかけることができると思った。actcoinをうまく活用しながらみんなが活動しやすい環境を作り上げたい。

## -その他のSA活動について-



学校の部活でSocial Action Team （通称SAT）という部活に所属しながらSA活動を行なっている。また年間を通して約10ほどの外部のボランティアに参加している。SATでは環境チームに所属し、環境問題に対する啓発活動を行なっている。具体的にこの12月には子ども（幼稚園生から小学2年生まで）を対象とした紙芝居で日本の森林問題に対しての啓発を目的としたワークショップを行う。中学2年生の頃に行っていた「はしっこプロジェクト」という、木の端材を使っておもちゃを作り、商品開発するといった活動は第27回ボランティア・スピリット・アワード　中学生部門でコミュニティ賞を受賞することができた。

今年3月には半年前から企画を担当していた「上田・東御スタディーツアー」を実施した。この実施の背景にはやはり、ブラインドサッカーで出会った運営をしていた方々の影響が強い。自分も誰かに学びを与えられるような存在になりたいと思い、実際に現地に行って学ぶことができる3泊4日の長野県上田市へ行くスタディーツアーを企画することができた。

学校内に留まらず、外部の課外活動として「始まりの場所」でも活動している。「すべての人が最大限に可能性を発揮できる」社会を目指し、次の世代の若者のために「ありのままでいられる居場所」「やりたい！を形にするきっかけ」をつくっている団体だ。自分と同じような悩みを抱えている子どもたちにできることは何かを日々考えながら活動している。スタッフが高校生から大学生まで幅広いこともあり、スタッフ同士の情報交換や悩み相談も可能で今では私の居場所ともなっている。

自分が好きなことが見つかると一つのことに熱中でき、一番やりがいを感じることができるようになった。私はこのような経験から、中高生という貴重な時期だが悩みが多い時期にSA活動に積極的に取り組むことによって、よりこの先の人生や学校生活が豊かになると考える。そして今度は私がこのような機会を提案できるような存在になりたい。